

漣標

Miotsukushi

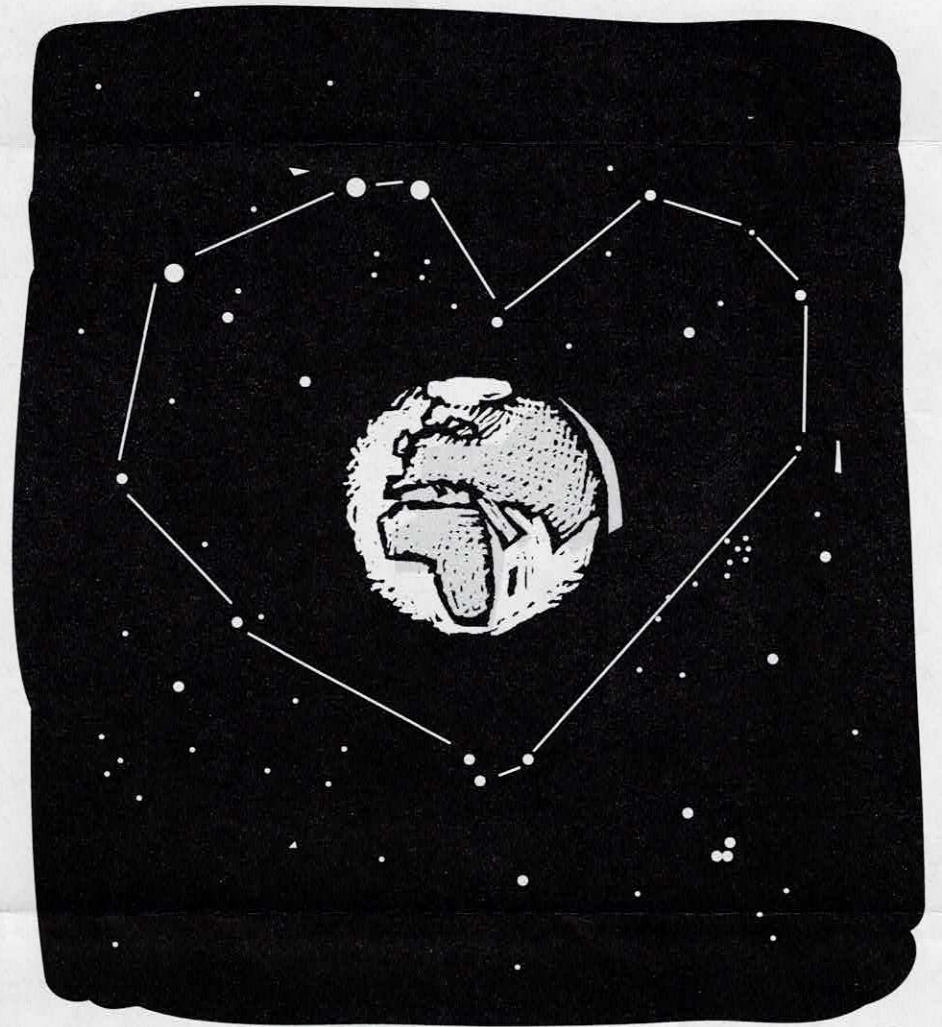
大阪府青年国際交流機構

会長 松本 仁孝

1999年12月1日発行

No. 74

MIOTSUKUSHI



今号の紙面

平成11年度国際青年育成交流事業報告

近畿ブロック大会 in 神戸

琵琶湖でバーベQ & ヨット&カヌー

特別寄稿「ハドソン君のI.Y.E.O.体験記」



「出会い」の大切さ

韓国派遣団 及川ひろ絵

私は今回の日本・韓国青年親善交流事業で最も大事なことは、「出会い」であると感
じている。それは、韓国の青年達・ホームステイ家族・ナジャレ園の日本人の御婆さん方々・
社会福祉施設コットンネを案内して下さったシスター・いつも私達派遣団のガイドをし
て下さった韓国観光公社の方々・バスの運転手さん・その他この派遣団のお世話をし
て下さった方々だけでなく、この事業に参加し、同じ目的=日本と韓国の架け橋になり
たい、と願う日本青年達、団長・2人の副団長との出会いである。

日本と韓国の間には、まだまだ歴史認識の違いや戦後補償、反日感情など様々な解決されていない問題が横たわっている。その意味では「近くて遠い」
関係にあることは否めない。

しかし、その一方で日本ではこうした問題に目を向けず、韓国の表面的な情報が氾濫している。観光旅行に訪れる人々、韓国を修学旅行先を選ぶ
中学校・高等学校も年々増え、あたかも「近くて近い国」になったかのような感覚を持つ人達が増えていることも事実である。

こうした中で、この派遣団での韓国滞在は、日本と韓国の距離を正しく見据えながら、その上でともに未来を考えていくことのできる日韓の国境を越え
た「出会い」をつくり、又日韓関係の明日を共に考える日本の仲間を与えてくれた。この「出会い」を通して、過去の歴史において日本が悪いことだ
けだけでなく、韓国と日本の対等な関係を考え、リベラルに対話できる関係を韓国青年と持ち続けていきたい。

私は国際交流とは、つきつまるどころ人と人の付き合いに始まり、人と人の付き合いに終わると思っている。国際交流は外交ではない。外交とは国益を
かけて国と交渉することだ。国際交流には基本的に国益は関係ない。個人が行う国際交流であるが、その個人はつねに全国民の代表であることを忘れて
はならないと思う。その個人に接する外国人は、その個人をとおして、「日本人」をみているからである。ちょうど、われわれ自身が外国人に接する場合、し
ばしばその人を通してその国民をみているように、今回出会っ

た韓国の方々が良い人ばかりであった=韓国は良い国だ、とい
うようにである。だから、われわれ一人ひとり、国民の代表と
しての自覚を持つ必要があるのだ。今回は日本青年代表
団という立場で韓国に滞在させて頂いた。このような場
合でなくとも、外国人と接する時は一人ひとりが大使で
あるという自覚を持ち、文化の違いを考慮しながら、
細心の注意を持って接する必要があると思う。ただ
一つ、世界中のどの国の人にも通用する原則がある。
それはすべて人間であるということだ。どのような
文化を背負っていても、どのような人種であろうと、
性別年齢に関わらず、平等な個人である。この原則
に立ち返って国際交流をすすめていきたいと思う。
特に韓国との関係は歴史的に見ても難しい状態にあ
る。それを変えていけるのがわれわれ青年達である。

今回得たような過去を見据えながら未来を語り合う、
そんな出会いの輪を広げてゆきたいと願っている。



近くて本当に近い国

韓国派遣団 諏訪 晃一

今回の訪問は9月29日から10月13日まで15日間の日程で行われた。大まかな日程は、
ソウル(文化施設見学・大学訪問など)→江原道平昌郡(今年度の訪日韓国青年と合宿)
→慶州(文化遺産訪問)→プサン(チャガルチ祭り参加)→ソウル(ホームステイ・福祉施
設見学)というものであった。その中でも特に印象に残ったのは、江原道での合宿と福
祉施設の訪問である。

江原道での合宿は、今年11月に同じく15日間日本を訪れた韓国青年と初めて出会う
機会であった。必ずしも互いの言葉ができる人ばかりではなかったが、2泊3日のプログラムで、スポーツ大会や川下り・洞窟探検、キャンプファイア等を通じ
て親交を深めることができた。

一方、福祉施設訪問では、韓国東南部に位置する慶尚北道・慶州市の「慶州ナジャレ園」と、韓国中西部に位置する忠清北道・陰豊(ウムソン)郡の「コットン
ネ」を訪れた。慶州ナジャレ園は、第2次大戦前後に韓国人と結婚し、韓国に渡ってきた後、身寄りの亡くなった日本のお年寄りを保護している民間施設で、
日本でも紹介されている。短い時間ではあったが、歌などを通じて交流し、喜んでもらえたと思う。

一方のコットンネについては訪問するまで全く知らなかったが、韓国ではかなり有名らしい。カトリックの民間団体が運営するこの施設についてシスター
からお話を伺ったが、コットンネはカトリックの精神に基づいた献身的な活動によって支えられているということが、ひしひしと伝わってきた。しかし、今回
訪れたウムソン郡の施設群は、全体で3000人を収容する大規模なものなのだが、職員の数や施設は明らかに不十分であった。これは単に経済的理由だけ
ではなく、社会の仕組みとして福祉がまだ確立されていないからではないかと感じた。

世界有数の経済大国である日本も、福祉に関してはヨーロッパに比べるとまだ20年から30年分遅れていると言われる。韓国の福祉の現実に触れた今、
韓国には何とか日本の失敗を繰り返さないでほしい、と心から願わずにはいられない。

韓国・江原道で親交を深めた韓国青年たちは11月9日から4日間京都に滞在し、そのうちの1日はグループ別行動となっていた。私も案内役を兼ねて京
都まで赴き、楽しい時を過ごすことができた。その中で、韓国の社会(特に福祉)についていろいろと話を聞くことができたのは、学生である自分にとって非
常に貴重な経験であったと思う。

日韓青年親善交流事業は相互の訪問がプログラムされているところが大きな特色である。最後に、10月14日の帰国報告会から2つの文を引用したい。…
大切なのは、人から与えられた先入観に左右されるのではなく、自分たち自身直接感じること…

「近くて遠い国」から「近くて本当に近い国」になれる

帰国報告



CHINA



FINLAND



DENMARK



ECUADOR



KOREA



CHINA



FINLAND



DENMARK



ECUADOR



KOREA

日中親善・交流事業に参加して

中国派遣団 伊藤 直子

生とさまざまな話をする機会に恵まれ、親しくなった学生によると、沿岸部にはかなり日系企業が進出し、日本語を生かして就職する機会がたくさんあるにもかかわらず、中国では居住の自由が制限されているため、仕事を求めて移動するのは困難であるという。決して恵まれたとはいえない環境にもかかわらず、



今回中国を訪問してみても最も強く感じたのが、「何て広い国だろう」ということであつた。北京、銀川、西安、杭州、上海という、この国の持つ広い国土からしてみればほんの一部の都市を訪問したに過ぎないのだが、地域によって経済状況、気候、民族、気質が全く異なるということを実感するには十分なものであつたと思う。

モノが豊富で情報もどんどん得られ、気候も温暖な沿岸部に比べ、内陸部は土壤もあまり豊かでなく、気候も厳しい。寧夏回族自治区の銀川で寧夏大学日本語学科の学生とさまざまな話をする機会に恵まれ、親しくなった学生によると、沿岸部にはかなり日系企業が進出し、日本語を生かして就職する機会がたくさんあるにもかかわらず、中国では居住の自由が制限されているため、仕事を求めて移動するのは困難であるという。決して恵まれたとはいえない環境にもかかわらず、

たつた1年で、流暢な日本語を身につけた彼女でさえ、このままでは海から遠く離れたここ銀川に日系企業が誘致されるのを待たない。私は大学を卒業しても、たぶん就職せずに大連の大学に進学してさらに日本語を勉強し、納得のいく仕事につきずっと働いていきたいと思う」と静かに語る姿に、私は心から応援せずにはいられなかった。

また今回の派遣は、団員一人一人が力を合わせて作っていくものであることを教えられた。全体的に年齢も若く社会経験の少ない団員同士が、始めのうちは至らない点が多く、団長や副団長から指摘を受けることも多かったが、日を経ることに全員が常に考えて行動するようになり、周りに目が行き届くようになった。私は途中、体調を崩し休養したことがあったが、その時のみんなの温かい励ましや気配りは忘れることができないだろう。こうした経験は、これから社会に出ていくことになる多くの団員にとって何物にも代え難い財産となるのではないだろうか。

近畿ブロック大会

「1泊2日 夢航海」

大阪I.Y.E.O 岡本光市



「Von Voyage!」にっぽん丸は7月3日(土)神戸を出港した。これは世界船?東ア船?いいえ、近畿のOB・OGそしてこれから参加しようとする青年たち約90名が参加した近畿ブロック大会。会場であるホテルプラザ神戸のホールに到着するとそこはまさしくにっぽん丸の船内。青年たちが既に多く集まりレクリエーションが始まった。初めて顔を合す人たちとも自然と交流がでまさしく出港前の事前研修のようである。その後はインド文化紹介にラテンダンス教室、トンガダンス教室と青年たちの交流は続く。そして午後5時半高谷船長(兵庫県会長)の挨拶で1泊2日の航海が始まった。会場を神戸の夜景が美しく見える18階に移し懇親会が始まった。中には民族衣装を着た青年たちも見られ雰囲気はまさしくにっぽん丸のダイニングルーム。世界船の有志によるメキシコダンス披露そして獅子舞の演技、さらにこの3月に帰国した青年たちによるニュージーランド・ハカヤトンガの踊り、最高に盛り上がった。翌日は派遣参加者が訪れた国をファッションショーで巡った。それぞれ民族衣装を身につけその国でのエピソードを語りあった。あつという間に2日間は過ぎ近畿の青年たちを乗せた船は日本に帰港した。短い時間ではあったが近畿の青年たちがひとつとなり情報交換、交流ができたことは大変有意義であつた。いよいよ来年は大阪。皆さんと共に考えていきましょう。

琵琶湖で バーベQ&ヨット&カヌー体験記

9月4日(土)・5日(日)《好天》

大阪市立びわ湖青少年の家(滋賀県高島郡高島町萩の浜)にて親睦会ならぬ大阪I.Y.E.O企画バーベQ&ヨット&カヌー一泊tourが行われました。暑いながらも9月に入っていたということもあって施設利用者が少なく存分に楽しめたスケジュールでした。

まず4日は到着後すぐに施設利用のためのオリエンテーション。利用案内にはアルコール禁止とが書いてあったのですが、いざ行ってみるとなんのことも無い! 別にどうでも良かったそうです。(といつつクーラーボックス満杯にビールが冷えてました!) 暗くなる前くらいよりバーベキューを食べ始め、ゆっくりとおしゃべりしながら退屈を満喫。じっくりと醤油を付け込んだとうもろこしが格別の美味しさでした。家ではなかなか作れないヒマナバーベQならではの味でした。

食事の片づけが済んで花火大会が催され、誰かさんがおおはしゃぎし

て振り回してましたねえ...〇〇西日本の〇〇さん!?燃えかすはポイせすきちんと片付けました。その後眠気まなこでヨットの基礎知識講座を受講し、入浴後に交流会(ただの宴会)が始まる兆しが...と思えば男性陣は私を含めてみんなさっさと横に。とにかく利用者が少なかったので自由に部屋を使っていいとのことみんな適当に散らばっていました。それに比べ、女性陣が何時まで騒いでいたかは言うまでもありません!

5日(日)も好天で、なおかつヨットに乗るには絶好の風が吹いているというとても良い環境で遊ばせていただきました。9:00~湖上プログラム(ヨット、カヌー、カッター)が始まり、まずヨット班はヨットの組み立てから教わりました。操舵に慣れていない方もそれなりに教えていただけ、それぞれ楽しめたことだと思います。若干船を沈めたり、酔っ払いしていらつしゃる方もおられましたかねえ。別にトラブルも無く、ご苦労様でした。

12:00~昼食をとりすぐに退所になり、解散したという全行程でしたが、費用もリーズナブルで充分楽しめ、総勢16名参加ということもあってにぎやかなイベントでした。

最後に、中心になって企画していただいた土肥さんにも感謝したいです。有難うございました。来年にもぎやかに行なえたら良いですね。みなさんも是非!!

大阪I.Y.E.O 酒井洋右

THE IMPRESSION THE PROGRAMMES ORGANISED BY THE I.Y.E.O. OF JAPAN

Hudson Eleagen Kalaeda

第11回世界青年の船に参加した、ソロモン出身のハドソン君が、現在日本語学習のため大阪にいます。この夏、近畿ブロック大会と琵琶湖の交流会に参加し、IYEOの感想をレポートにまとめてくれました。

INTRODUCTION

Internationalisation in this modern age is of great importance to any new community, society, organization, nation or even in our global family as a whole. As we are at the end of this century ready to step into the next century, plans and proposals should be made to carefully evaluate and see what we can do to minimize and eliminate the problems affecting our societies today. In doing so the next century will be a time that we will see the positive results of what we are doing now. The failures and problems of the past and the present will enable us to take our next step firmly and further to face the future challenges with all hope and strong determination to achieve our goals and aims.

The International Youth Exchange Organization of Japan (I.Y.E.O.) has been playing a vital role in the shaping of the internationalisation of Japanese Youths, helping them to further and broaden their vision of the global youth affairs, promoting youth exchange programmes with in Japan and abroad. Exchanging ideas and cultural values enhances mutual understanding which leads to peaceful co-existence and the appreciation of each other. When this happens a peaceful, harmonious and enjoyable global that will be.

THE FUTURE OF I.Y.E.O.

The future of I.Y.E.O. looks promising and it will continue to prosper into the next century. As a foreigner looking at the functions of this organisation it plays an important in strengthening the ties between Japanese youths and the youths around the world. Culturally, socially and mentally it draws the hearts minds and inspirations of the youths to a common understanding to exchange ideas freely and find conclusions to the problems that are rising up between youths today.

Despite the barriers that existed between our nations for countries.

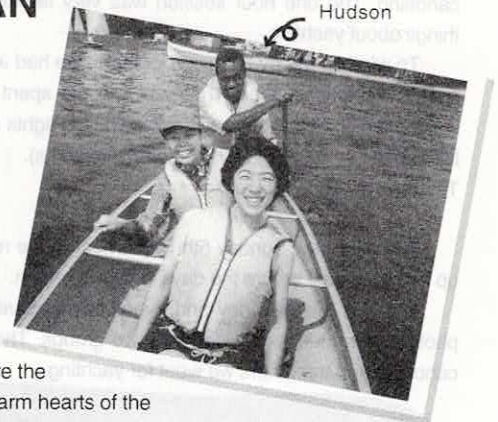
The birth of I.Y.E.O. helps in breaking down those barriers and I believe most of them have already been broken. Until now, we can see that transparency is occurring therefore let LOVE, PEACE, PROSPERITY and PEACEFUL CO-EXISTANCE be fully established amongst us.

ACTIVITIES BEING CARRIED OUT

Achieving the goals of such organization is not easy as we can practically think of it. It needs time, money and human effort to achieve the purposes and credibility towards Japanese youths and youths elsewhere.

The activities main focus is to promote awareness of what has been hidden for many behind the cultural, religious and national boundaries of the Japanese society and all the others around the world. Breaking these barriers is the focus of all the activities.

Since arriving here in Japan, I was told of the activities/programmes being pre-arranged by I.Y.E.O. I was looking forward to attending them. Fortunately I had the chance of attending two of the programmes here in Osaka and Hyogo region. Those two programmes gave me fantastic, wonderful and incredible experiences



and all the more the friendly and warm hearts of the I.Y.E.O. members.

THE ROOKKO ISLAND CONFERENCE

This programme is beyond what I expected it to be as a foreigner.

For the first time to be with the I.Y.E.O. members here in Kansai/Hyogo region, I felt no difference within myself despite the language barrier that existed between us.

The icebreaking and club activities were fantastic, I can clearly see the reality and solidarity of the youth members as being a member of I.Y.E.O.

In the evening we had a reception party where everybody greeted each other with smiles and that was when I meet many people that I had never meet before.

In the course of the reception we had the Maori Haka, (New Zealand) performed by Japanese youths and myself, Mexican dance.

On the next day, Sunday 4th July, after breakfast we began the official programme. During the days programme, reports were made and International presentations were also made by the I.Y.E.O. members whom they had been abroad. Example, of those countries being introduced are, India, China, Mexico, Tonga and I also explained about Solomon Islands. This gave me a great deal of idea how diverse the members of I.Y.E.O. are by the way they appreciated are freely discuss and eager to how about what is happening in the other country.

At the conclusion of the programme the president made the final remarks on how the organization had been progressing and wished everybody to be courageous to face the challenges and be strong.

THE BIWAKO OVER NIGHT STAY

It was the longest trip I even taken by car life time from Osaka to the beautiful scenery of Biwako Lake. In the heart of Japan I once more/again discovered some of the values of I.Y.E.O.

On our arrival in the evening of Saturday 4th September, we were welcomed by the cool evening breeze that swept down the hills onto the sparkling waters of the lake. The evening sky was so clear and friendly as some of the group members were yet to come. There as the darkness began to fall I can feel the touch of nature when I spoke to the I.Y.E.O. members.

Food preparation began, each one had something to do and it was very interesting. Everyone enjoyed the food preparation, where the food sent out the scent that filled the atmosphere around us assuring us of a delicious dinner it would be. Indeed it was so, everybody enjoyed the meal. Sitting around the round table, eating and introducing ourselves to each other, as this was may first time to meet some of the I.Y.E.O. members.

After dinner, we had a thrilling time on how to do yachting and canoeing. The one hour session was very fantastic learning new things about yachting.

To wind up the evenings programme we had an enjoyable time beside the lake outside where we would spent the night. Over looking the sparkling waters that reflects the lights and the stars we light up our surrounding by 'hana bi' (fireworks). This was a wonderful time.

The next day, Sunday 5th September in the morning we woke up had breakfast before the days activities began.

It was a beautiful day and everybody was very happy, taking photographs then we divided into two groups. The others went for canoeing and the others we went for yachting.

Everyone of us enjoyed our different activites, then we changed activities after some times past. This was for some of us to do canoeing and yachting, however we obtained enough knowledge and skills on how to do both activities despite the very short time we feel.

The activities finished around noon and we unpacked everything and put them back into their rightful places and then we prepared ourselves for lunch and going back home.

The days activities were over and lunch was also over, everybody was packing up their belongings ready for the departure time, and at this time I could see that everybody had obtained something from the programe. This was another step in strengthening the bond between us for mutual understanding to further enhance the solidarity of the I.Y.E.O.

EMPHASIS ON PROGRSMMES ORGANIZED by I.Y.E.O.

Being together with the I.Y.E.O. members gives much more than I could have thought of the two programmes set light into my life, especially as a foreigner I see how eager the Japanese Youths tried their utter most best to know and experience what it was like in other countries especially with the peoples life style.

The fundamental issues being discussed taught me much about breaking the cultural barriers that is with the Youths of my country and I hope the work being establish with in I.Y.E.O. will enterd and spread endlessly to each nation, society, family and each individual to understand the need of exchanging ideals of youths. Not only youths but everyone.

All the more I would like to extend my sincere thanks. to: The President, Chiarman, Director and all the I.Y.E.O. members here in Kansai and Hyogo Region for making it possible for me to attend these two programmes. The experience I had is incredible and I hope to working closely with the Organization during my time here in Japan.

平成11年度会費納入のお礼とお願い

平成11年度の会費を納入してくださった方々、どうもありがとうございました。「アッ!忘れてた」という方、今すぐ同封の郵便振替用紙を持って郵便局に足をおはこびください。皆様の会費でこの「滞標」の印刷・発送をしています。ご協力お願いいたします。

会費納入者(11月10日現在) 39名 (順不同)

松本 仁孝	岡本 光市	国分 由佳	土肥 訓子	賀元 澄子
大野 秀之	大野 智代	浮田アヤコ	瀧 梢	杉浦 孟子
川崎美智子	西村 薫	今堀寿恵子	瀧谷比富美	吉木 麗子
成瀬千枝子	山本 恭史	木田 節子	青木 和子	西村 喜継
安藤美奈子	坂野 博彦	河北 麻紀	増田 健司	木下 久子
和田 良和	池田 留美	土戸 千晶	西川 真理	圓井 和正
高嶋 睦	岡田貴代江	辻 豊治	山田 睦子	川上 隆司
太田 俊弘	田中 康一	野田 星奈	酒井 洋幸	

INFORMATION

アイデア募集!

例年秋に鶴見緑地公園で行われていたワン・ワールド・フェスティバルが、今年度は2月26・27日に国際交流センター(天王寺)で行われます。今年もインコミでパネル展示、模擬店をすることになりました。例年タコス販売していますが、今年は何にしましょうか? 何かよいアイデアがある方は、ぜひご連絡下さい! またスタッフも募集中!

[問い合わせ先] 岡本 06-6975-0801
E-mail : PDE02564@nifty.ne.jp

滞標原稿募集

これから滞標では、個人の活動報告や旅行寄稿などを載せていきたいと思ひます。我こそは! と思われる方は、ぜひご連絡ください。

[問い合わせ先] 国分 06-6877-7233
E-mail : EZV07777@nifty.ne.jp

《壮行会》

8月20日、近畿ブロック全体での壮行会が森ノ宮の青少年会館にて開催され、全事業の今年度の参加青年が集まり、大変にぎやかな席となりました。今年度より世界船と東ア船の実施時期が変わったことにより、事前準備の期間が短くなり不安な様子でしたが、新会員の頼もしい抱負を聞くことができました。

青春後記

先日「人間とはなんだ」というテレビの特集番組が、裸で暮らしているアマゾンの原住民取材していた。子供が生まれて2ヵ月は母が隔離されて二人だけの時を過ごし、それを過ぎると村の歳の離れた子供たち同士で仲良く遊ぶ。初潮を迎えるとまた母親と二人きりになり、一人前の女性になるための仕事などを1年間みっちり教え込まれる。いつも村のみんなで喜びや悲しみや全てのものを分けあう。何だか人間の基本のあるべき姿を教えられているような気がした。そして、何と彼等には、「幸せ」という言葉がない。あえて言うなら、「村の皆がにぎやかに楽しくしている」ことだろうと。「個人の幸せ」などということは考えたこともないのだろう。まだ世界にこんな人達がいるんだ。本当に世界は広い。そして、「にんげん」は素晴らしい。

OH! NO!